

平成 23 年度第 4 回朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成 23 年 11 月 24 日（木）

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

平成 23 年度朝日地域審議会 会議録

○日 時：平成 23 年 11 月 24 日（木） 9 時 30 分から 12 時 00 分まで

○会 場：鶴岡市朝日庁舎 4 階 大会議室

○出席者：敬称略

（委員）佐藤正、小関祐二、松本壽太、伊藤文一、佐藤照子、難波玉美、佐藤宥男、佐藤芳彌、
小野寺一郎、帯刀春男、井上時夫、菅原孫一、佐藤世津子、難波庄一、菅原和則
（20 名中 15 名出席）

（市側【庁舎】）朝日庁舎支所長、各課課長・主幹、総務課職員

（市側【本所】）企画調整課長、企画調整課職員

－辞令交付－

1. 開 会

2. あいさつ 会長

3. 報 告

（1）鶴岡市総合計画実施計画の策定について 企画調整課説明

意見（佐藤正）

6P に新規に農作物輸出拡大とあるが、販路の輸出拡大よりも他にすべきことがあるのではないかと。例えば、公設市場は大きな影響力を持っているが、ある生産物の生産期にカレンダーどおり連休で休んだりする。その間、冷蔵庫で保管することになる。スーパーなど小売店は開いているが、公設市場は休んでいる。生産者としては、やりきれない思いがある。交代制など工夫して、休みを週一にすることはできるのでないか。それで無くとも市場価格は出荷してみないと値段が分からない。これでは、出荷する人が減ってくるのではないかと。また、環境保全型農業とあるが、出来れば採算が取ればそうしたいと考えている。ただ、市場に出しても思うような価格がつかない。まじめに環境対策に取り組める環境になっていない。

また、森林文化都市構想について、大鳥自然の家を拠点とした環境教育プログラムとあるが、行革に大鳥自然の家が載っていた。計画とマッチしていないのではないかと。

回答（企画調整課）

公設市場については、庄内広域行政事務組合で運営しており、地域審議会の場でこういった意見があったという事を伝えていきたい。

環境保全型農業については、つや姫など有機栽培を推進しようとして取り組んでいる。朝日地域は農業を基盤としている地域であり、市としても力を入れ農業関連の施策を進めていきたい。

また大鳥自然の家の事業について、行革の中で民間活用と位置づけられているが、森林文化都市を進めていくにあたり、自然の中で子供を中心とした体験の機会の提供は重要な役割となるので、どのように実証していくかの手法は、より効果的となるように実施をしていくと考えている。

意見（小関祐二）

森林文化都市の概念の線が細いのではないかと。地域の人が根を張った状態のところには文化となるものではないかと。ただ親しむだけでは文化とならないと思う。林業についても書いてあるが、言い方が弱いのではないかと。林業を活性化させるためには、搬送する道路の整備が必要である。文は美しいがインパクトが無いと感じる。現場の人の不安は、在来の材木を使いたいとペイしない。個人では負担しきれな

い。林業に関する人たちのネットワーク、連携がさらに必要と思う。

意見（帯刀春男）

森林文化都市構想について、朝日地域が拠点となっているようである。旧鶴岡地域から来た人が、朝日地域に来るとキノコ、山菜をだれでも採れるという意識があるようだ。私有林、私有畑を守らなければいけない状況があるが、それには市民の意識改革が必要である。単に森林文化都市というのではなく、市民の意識を変えていくような施策をとってもらいたい。

意見（佐藤芳彌）

文化という言葉が分かり辛いのではないか。森林の果たす役割や、それを子供たちが体験することは大事であると皆分かっていると思う。その森林を保護していくには、そこで住んでいる人が居て維持していくことが大事であり、それを町の人に分かって欲しいということではないか。

回答（企画調整課長）

森林文化都市の捉え方が広範であり、定義することも難しいところである。合併して鶴岡市は森林面積が7割を超える。森林を改めて価値のあるものとして見直していこうとし、合併の際の大きい理念として捉えている。山形大学の北村先生が、人と森林との新しい関係を築いていく森林文化都市を新市として進めていくことが重要ではないかと提唱された。基盤となる林業は重要と認識している。11Pにあるが、森林経営の基盤強化のため、集約化を進めていく。小規模作業道等の整備の重要性は市としても認識しており、取組みを進めている。また、地域産材の利活用についても、「家づくりネットワーク」や「つるおか住宅活性化ネットワーク」があり、設計士や工務店など横の連携を図り力を入れている。

言葉のインパクトが弱いと指摘があったが、その点については今後努力していきたい。市の業務が広範囲に渡っていることもあり、苦慮しているところである。

また、私有地に様々な人が入ってくるということについては、意識啓発を図っていくことが大切になる。具体的な対応については担当課に伝え、検討していきたい。

意見（帯刀春男）

てくてく里山歩きなどで、行沢のトチ林に行きたいという提案が市から在ったが、一度覚えてしまうと後で大挙して来る例があり、提案を断ったという経緯があった。キノコや山菜など、後で軽トラックや車を連ねて来て、管理しているものをゴッソリ持って行く事があるようだ。森を歩くことは大賛成だが、こういった例があると、高齢者の一つの生きがいを奪ってしまうことになる。

回答（企画調整課長）

今、詳しい状況を聞いたので、市でも調査したい。

意見（帯刀春男）

朝日村時代の過疎計画など、課題は沢山あり解決に取り組んできたと思うが、合併前のそれぞれの地域の課題を新しい計画の中に盛り込んでいるのか。合併協議の中にも難しい問題が残されていたと思うが、この計画の中にどのように盛り込まれているのか。

回答（企画調整課長）

具体的な案件があればお知らせいただきたいが、経過としては合併にあたり、各地域単位で建設計画を策定し、どういう市を作っていくかまとめている。平成17年10月の合併後、新市としての新しい総合計画を平成21年1月に策定し、各地域審議会との意見交換、また書く地域の建設計画及び地域振興ビジョンの取組みも踏まえて策定した。具体的な事業については、毎年予算編成の中で予算措置することにより推進している。

意見（帯刀春男）

地域の特徴を活かした計画としてもらいたい。

回答（企画調整課長）

策定のプロセスとして、地域にどのような課題がありどのような取組みをしていくのか、各庁舎にヒアリングを行い、それを基に策定している。もし不十分な箇所があった場合は、それぞれ関連の部署にご意見をお寄せいただきたい。

(2) 鶴岡市国土利用計画の策定について 企画調整課説明

意見（菅原孫一）

地震について、鶴岡市は沿岸部が多いが、海岸線の津波の防災はどうなっているのか。

また、クリーンエネルギーやバイオなど言われているが、朝日地域では地域水力発電所が立地条件的に良いのではないかと思う。ただ、いろいろな規制があり難しいところもあるようであり、実際に水力発電を行うにはどういった障害があり、どう解決していけばいいかの検討が必要かと思う。

回答（企画調整課長）

津波について、東日本大震災を受け、従来の想定よりも厳しいものにして県で調査を行っている。それを踏まえ、ハザードマップを作成する必要があると、現在 M8.5 の地震を想定し調査を進めているところである。

水力発電については、国・県でも新しいエネルギー関連の戦略を作っており、その中でも小規模水力発電も買取の対象となるようだが、詳細についてははっきりしていない。市としても課題として捉えており、朝日地域は水力発電のポテンシャルを持っていると認識している。水利権や電気事業法などの問題があり、また事業主体はどことなるのかなど、様々な調査検討が必要となると考えられるが、エネルギーに関する取組みは重要な問題と捉えている。

意見（佐藤正）

7P 農用地が載っているが、水田の転作では畦畔を残さなければならないとなっている。これでは畑で利用するとなると使いものにならない。耕作放棄地を作らないようにする話とは矛盾する話となる。

また、小水力発電について市に相談する場合、どこに相談すればいいのか。具体的な状況を聞きたい。

回答（企画調整課長）

畦畔については、具体的な話があれば調査したいと思う。なお、担当課に確認を取りたい。

また、小水力発電については、小規模な水路で自家用に発電するということであれば、可能と考えられるが、個別の案件となるとぜひ企画調整課に相談して欲しい。

意見（小関祐二）

水力・風力発電は非常に大事なことである。不必要な規制は無くして欲しい。誰のための規制なのか。

震災後に陸前高田に行ってきたが、下水道がメチャクチャになっていた。山あいの汲取り式は無傷で残っており、下水道の災害対策についてはどのように考えているのか。

回答（企画調整課長）

小規模水力発電について、規制緩和が不十分となっていることは認識しているが、どのような形で地域活性化に繋がるか、またエネルギー確保に繋がるような取組みができるのか、研究していきたい。

下水道について基準に基づいて設置されていると思うが、災害への問題意識は高まっている。

意見（小関祐二）

公共下水道は災害に弱い。災害にどのように対応するのか、どのように考えているのか。

回答（企画調整課長）

下水道課に伝え、内容を把握したい。

意見（小関祐二）

自治防災で大切なのが、水とトイレと電気である。自主防災に対して、総合計画で力が弱いのではないかな。

意見（伊藤文一）

森林文化都市について、前市長は子供が自然と触れ合うことだと言っていた。現市長は森林で生活出来ることだと言っており、自分としては良いことだと思った。

また、大綱保育園を無くすることが決まったようだが、隣の家が保育園のため市内に引っ越すことになった。幼児をバスで各地区回って乗せていくことは、親は心配であるとのことだった。小学校も統合の話があるが、体育館など利用して欲しい。

合わせて、森林組合についてだが、集約化間伐をしており、作業道、林道を作られている。バイオマス、ペレットの話が出ているが、木は乾燥すれば使用できるものであり、蒔きストーブについても進めようと思う。木灰についてもいろいろな利用価値がある。燃料は下から買ってくるものではなく、山から下げるんだということを考えてもらいたい。

回答（支所長）

保育園統合について、具体的に心配なことを挙げて欲しい。一つずつ協議し、解決していきたい。

質問（小野寺一郎）

朝日には大きく3つのダムがあるが、災害時に決壊した場合はどのように想定しているか。ダムは調査しているのか。

回答（企画調整課長）

手元に情報が無いので、戻って把握していきたい。ダムを作った際に設計の基準はあるはずである。

意見（佐藤芳彌）

調べたものを後日教えて欲しい。

意見（難波庄一）

朝日ならではの良いところがいっぱいある。今は数で決める仕組みとなっている。温海地域なども含め、自然を活かした鶴岡市であって欲しいと思う。朝日地域は、山間部でもトイレが整備されている。このため、災害があっても川は汚れない。川は大切であり、朝日は川を守っている。保育園、学校の数が少ないことで一緒になる話が在る。保育園が先に統合となるが、そうすると小学校の話がしにくくなる。保育園で一緒だったのが小学校で分かれることになってしまう。働く場所が無いのであれば、働く場所を作る話し合い、地域を発展させる工面をしていきたい。川上で頑張っていることを川下の人に理解して欲しい。

回答（企画調整課長）

山間部で山を守っていることを、都市部で暮らしている人に理解を広げていきたい。山があつて平野があるという意識を市全体で共有していきたい。

(3) 朝日地域審議会提言書（案）について

意見（佐藤正）

8Pの行革の大綱については、疑問がある。行革の推進を朝日地域で言うことはないとおもう。行革の推進の下半分は「はじめに」に含めるべきではないか。行革の推進は止めて欲しい。合併して6年にな

るが、朝日地域で住民の負担増がかなりのものになっている。過疎化に拍車がかかっており、活性化を謳っているが、行革は「はじめに」にまとめたほうが良いのではないか。

意見（菅原和則）

合併の際の課題はどうなっているのか。問題解決したものしないものあると思う。行革については疑問に思うことが多い。行革全体を推進することはどうか。

コミュニティの交流について、自治会組織が民間委託のような形となるようだが、具体的にはどうなるのか。

防災に関して、企業との連携が必要になると思う。どこかに文言を入れて欲しい。

意見（帯刀春男）

朝日地域は昔から産業基盤、ガッチリしたものが無い。特産を進めていくことは異論が無い。朝日地域は、山、川を抱え、雨、雪の災害が毎年のようにあるが、朝日地域を教育の視点で捉えてほしい。雪を活かす計画があるが、スキー場の子供たちへの開放や山大演習林など地域資源を教育活動に使う前提を持って欲しい。人口、効率だけでない。子ども達は野外の活動が好きである。資源としての雪を分かかって欲しい。

意見（佐藤世津子）

山間部の保育施設は大切である。心が育てられている。森林の使用が大切にされている。子ども達は虫や花に驚きの目を向けている。きのこが採れる、甘い水が採れるなど発見があり、驚きがある。森林でも観光地として入っていいところと、生活の基盤となっているところがあり、区別する必要があるのではないか。子供のうちに自然の大切さを伝える教育をしてほしい。

意見（松本壽太）

行政は住んでいる人のためにある。もっと人口調査を行い、それに傾斜配分することが必要でないか。鶴岡市を6つの地域に分けているが、生活スタイルの違いが旧市町村だったのではないか。人口や男女別を考えて、行政マンが人との関りを考えて、地域にあった経済をお願いしたい。昔はもっと元気があって、農業メインでそれに付随する商工業だったが、経済的なエンジンとなる部分を提言書に謳ってほしい。

意見（小野寺一郎）

福祉についてあまり触れていないと感じる。元気な高齢者の健康と生きがいについて追加提案はできないか。いきいき活動することで介護予防につながる。生きがい対策の提言が欲しい。

回答（支所長）

行財政改革について、提言書に入れてしまうとその取り組みを全て認めたことになるのを心配していると思う。ただ、これまでの地域審議会のなかで行財政改革の話が何度も出ており、提言書に全く入れないわけにもいかないと考えた。行財政改革については「はじめに」の中に入れていくようにしていきたい。提言書は、これまでの地域審議会の意見をまとめたものであり、網羅しているつもりである。今日いただいた意見も含めて整理したいと考えている。また、上流部の果たす役割について、例えば広報で中山間特集を組むなど意識啓発をしていければと考えている。

意見（佐藤芳彌）

朝日地域で行政改革について全面的に推進する人はいないと思う。皆平等ばかりではなく、合併した地域の特性を活かした施策を行って欲しいと提言書に入れて行きたい。

意見（佐藤正）

8Pについて、行革の項目を設ける必要は無い。冒頭で触れれば良い。推進の言葉は使いたくない。財

政が心配という話があるが、合併後に我々が犠牲になり、我慢したおかげで平成 22 年度の決算は好転している。市街地だけが良くなっており、周辺地域が遠慮することは無い。

意見（佐藤世津子）

7P の自然資源を活用した体験型プログラムに、大鳥自然の家を活用した事業とあるが、もっと広く森の保育のような森林を利用した教育や山間地の施設利用を入れて欲しい。

4 その他

地域の活性化、コミュニティ機能強化に向けた地域庁舎機能の見直し 支所長説明

5 閉 会